

北九州革新懇ニュース

平和・民主・革新の日本をめざす北九州の会
〒803-0817 北九州市小倉北区田町 13-21 田町ビル 3 F
Tel.093-592-5000 Fax093-571-4346
E-mail k-kakushinkon@ace.ocn.ne.jp

全国革新懇「三つの共同目標」

1. 日本の経済を国民本位に転換し、暮らしが豊かになる日本をめざします。
2. 日本国憲法を生かし、自由と人権・民主主義が発展する日本をめざします。
3. 日米安保条約をなくし、非核・非同盟・中立の平和な日本をめざします。

北九州革新懇 インタビュー

プロフィール 大平 剛（おおひら つよし）教授
1965年生。50歳。大阪府枚方市出身。京都大学経済学部卒、オックスフォード大学セントキャサリンズ・カレッジ神戸インスティテュートを経て、イギリス、ウォーリック大学に（1年間）留学、名古屋大で博士号・助手として5年勤務。2003年4月北九州市立大学へ。現在、北九州市立大学外国語学部国際関係学科、外国語学部長、大学院社会システム研究科博士前期課程東アジア専攻長。家族・婦人と5歳のお子さん。趣味・サッカー、マラソン。



大平先生とは小倉南区の新婦人まつりで、先生の国際関係についての講演で初めてお会いしました。また毎月の19日「戦争法廃止」の行動で小倉駅でも一緒に、北九大食堂でも何回かお会いしました。今回、小倉南革新懇でインタビューをお願いすることになり、3月2日有馬和子世話人と北九州市立大学の研究室をお訪ねし、約1時間、国際関係や平和・安保法制の廃止・若者の考え方等についてお話を伺いました。

◆最初に平和運動に関心を持ったのは……

大平教授 私は日本平和学会に所属しているので、同じ志を持ったリベラルな方々と会うことが多いのです。九大の石川教授、山口大学の瀧瀬教授などお会いすることも多く、今の政治に対し批判的に見えています。自分の専門分野でもある国際協力、国際援助など国際情勢が大きく変わってきています。その中で対中国の

東シナ海、南シナ海の問題やアジアでの開発援助がリンクされようとしています。また、国際協力という美名のもとで国家間の関係が悪化しています。安倍政権のもとで日本の国が大きく変わろうとしていることに危機感を感じています。

◆閣議決定でいきなり集団的自衛権を認めたことについてどう思われますか

大平教授 物事の決め方がおかしくなっています。このところ諮問機関を首相が任命して、一

部の意見で物事が決められていく。マスコミの影響も大きいと思います。

◆ SEALDsのような若者が立ち上がっていますが、北九大の学生の平和運動に対する関心……。

学生さんとこの問題について会話をされていますか

大平教授 基本的にはゼミの学生と話をしますが、授業のなかで少し話す程度です。具体的に話すことはあまりないですね。しかし、「有志の会」を立ち上げてから学生も署名をしてもらえるようになりましたが、FYM(福岡・ユース・ムーブメント北九)に参加して継続して自分たちがやろうとする学生は少ないですね。先生が音頭を取ればついていくという程度です。

私の知っている限りでは、主体的に行動する学生は今のところ残念ですが少数ですね。外国語学部には女性が多く、これはジェンダーですが、一般的に世間と言われる「安全保障は男性の領域」と思いがちで、自分たちには「遠いもの」と考えている学生が多いです。現在私のゼミ生は今期は4年生が14名、3年生が7名。9割を女性が占めています。

◆ 外国語学部の女子学生はどういうところに就職する方が多いですか？

大平教授 特徴としては、他の学部比べて比率が高いのが航空業界です。スチュワーデ

スのような就職を目標に入学した人も結構います。

◆ 最近の学生の自主的な取り組みについては

大平教授 自主的な取り組みについては、昔は3年～4年の学生が中心に活動を行っていました。もともと最初は外国語学部の生徒が自発的にやっていて「岩波新書を読む会」なども立ち上げた記憶があります。今は大学側の地域創生学群が計画を立ててやっています。地域創生学群は大学内で一番倍率が高

くなっている部局でもあります。ボランティア精神を持った学生が多くなっているように思います。5月には北九州弁護士会と憲法学習会を行う計画をしていますので、講演が終わって学生と一緒にディスカッションをする予定です。懇談の中で戦争法や憲法、シリアの話をしたと思っています。現在講師を依頼中です。

◆ 憲法違反の安保法制(戦争法)について

大平教授 国民の反対を押し切って強行採決された安保法制は廃案にして、立憲主義、民主主義を取り返さなければならないと思います。大学の隣には自衛隊もあり、犠牲になる自衛隊員の家族のことを考えなければならないと思います。私自身、自衛隊に対するアレルギーはいまだにあります。彼らも犠牲者として捉える必要があります。もし、今後海外で死者が出れば、首相は「ありえない」と言っていますが、徴兵制もあるのではないかと不安を感じます。布施祐仁氏の「経済的徴兵制」という著書がありま

すが、貧困家族、奨学金が返せない苦勞人学生に対し、自衛隊が「安定した生活がある」ということでターゲットにして勧誘を加速させています。今では高校生の所までできていますから……。80年代にはすでに始まっていたと思います。格差社会が深刻になる中で、戦争法が施行されて戦争に都合のいい状態を作り出しているような気がします。大阪や名古屋では感じたことがなかったのですが、九州に来て思ったのは自衛隊が就職先の一つになっていることです。その点が気がかりな問題です。

◆ 北九大の講義でも自衛隊の幹部が安全保障について講演をすることもあるのですか

大平教授 自衛隊一防衛省の制服組を招聘(しょうへい)して授業を行っている教員も他部局にはいます。問題なのは学生をつれて課外授業を行っていることです。任意

ですけれども、単位をとるために築城基地の見学や、戦闘機やヘリコプターに乗せてもらうなどが行われています。全国でも取り組まれているのではないのでしょうか。

◆ 今後の展望についてのご意見を

大平教授 夏の参議院選挙が焦点です。野党共闘が本当にできるのか。もっと「自民・公明に3分の2を与えたらこうなってしまう

うのだ」という危機感を持たなければならない。無知でいることが「政権の思うつぼ」になっていることを知るべきであると思います。

感想：大平教授は「これからの子どもたちのことを考えたら、今の安倍政権の危険な暴走を何としても止めなければならない」という決意を語られ、インタビューを通じて平和な日本を願う大平先生の若々しい情熱を感じました。先生は趣味がサッカーで、ギラヴァンツの前身、ニューウェーブ北九のシニアチームに属し、月2回の練習をされているそうです。2月の北九州マラソンにも参加され4時間 26 分で完走されたとのこと。若さの源でしょうか。北九州市立大学の若い教授として、平和運動を生徒に引き継ぎ、根付かせてほしいものです。佐賀大学の青年革新懇や神奈川青年革新懇のように北九大青年革新懇結成についても希望を持つことが出来ました。お忙しい中、本当にありがとうございました。

51回目の3・11 定例宣伝署名行動

東日本大震災と福島第一原発事故から5年目となる3月11日、「脱原発をめざす戸畑の会」は戸畑駅前を通算51回目となる宣伝・署名行動を行いました。

この日の行動は、午後5時30分から6時45分までの45分間。代表の鋤塚さと子さ



ん（戸畑革新懇代表世話人）らが「原発事故は収束していません。福島の経験は、人類と原発は共存できないことを私たちに教えてくれました。子どもたちに原発のない日本を渡しましょう」と訴えました。その間、5人が通行人に「原発からの撤退を求める署名です。ご協力をお願いします」と呼びかけ、57人から署名が寄せられました。

二人連れの女子高生、仕事帰りの労働者、「ご苦労さまです」と声をかけて署名に応じる子ども連れの女性、連れ合いの手を引きながら立ち止まって署名する高齢者、「あちらでしました。頑張ってください」と笑顔で駅改札口に急ぐ人など、これまでの「11日の行動」に比べて多くの方が署名に応じてくれました。一人で17筆を集めた参加者のHさんは「よくしてくれましたネー」と感想を述べていました。

3月9日、毎月の2000万署名行動

小倉南区革新懇は「小倉南9条の会」と合同で「戦争法を廃止させましょう」と毎月9日守恒サンリブ前で宣伝、署名を行っています。3月9日の行動は小雨が降る中、参加者3人リレートークを行い、17時15分～17時45分の30分間で、22筆の署名が集まりました。宣伝では、「日本は軍事費やアメリカの思いやり予算にお金をかけないで、若者が希望の持てる日本にしましょう」と訴えると通行中の高校生が署名に応じてくれました。

また、学生は高い学費に追われ奨学金で若者は苦しめられています。40歳まで奨学金

ローンに追われ、非正規雇用では結婚も子育て



でもできません。「戦争に行くのも若者です」と訴えました。参加者は少なかったのですが5党首が選挙協力することによって「野党は

共闘」に多くの国民の願いが政治を動かしているように思いました。

昨年11月、若松北海岸の響灘埋立地にあるPCB処理施設で発ガン物質ベンゼンが長期に渡って漏れていたことが発覚しました。若松の環境団体等が抗議し説明会などを開き、今後の対応を話し合っています。「響灘を危険物ごみ捨て場にするなの会」の小泉康子さんに投稿していただきました。

赤崎市民センターで学習会 「ベンゼン漏れ事件と地域環境について」

2月19日、18:30より赤崎市民センターで、小石・赤崎地域の20名の方々と「ベンゼン漏れ事件と地域環境について」学習会をしました。

これには前段があります。2015年11月に響灘埋立地にあるPCB大量処理工場(JESCO)発ガン物質ベンゼンが基準値の11倍も漏れていた、しかも1年半も隠していた事が、マスコミ発表でわかりました。JESCOや北九州市環境局に、近くに住む住民として私たちは抗議に行き、「市民説明会」を約束させました。2016年1月21日、若松市民会館で行われた「市民説明会」では、環境省、JESCO、市環境局も頭を下げ神妙でしたが、謝って済む事ではないと小石地区在住の方にわかって頂きたかったのです。

地域環境の面では、高度成長期から埋め立てがどのように進み、産業廃棄物と浚渫土砂と家庭ゴミで土地が造られて行ったか、その土地に建てられたリサイクル工場での火事等多発など説明しました。埋立地は約607万坪と広大で、住民の目が届かず、そこで何が

起きているのか分からないのです。

「ベンゼン漏れ事故・事件」の経過と問題点、行政の対応、又、これからどのように住民として考えるのか、当事者として声をあげることの大切さを、共産党の山内涼成市議を交えて話しました。その中で、2000万署名にも取り組もうという意見がでました。参加者からは「今まで知らなかった。いろいろ聞けてよかった。」という声がかれました。(「響灘を危険物ごみ捨て場にするなの会」小泉康子)



若松区・参拝埋立地がビオトープに

若松革新懇では、市が「次世代を担う自然エネルギー」として響灘沖に風力発電用の陸上・洋上あわせて140基の風車を建設するという計画の影響について、学習会を開く予定です。

PCB処理施設、白島国家石油備蓄基地など若松の埋立地での問題を、環境団体の方々や多くの市民といっしょに考え学習し、安全なくらしが保障される街にするため力をあわせていきたいと思っています。

